

植	物	
防	疫	
講	座	

虫害編-48

タバコに発生する害虫の生態と防除

日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所 ふかざわ なおと もろくま だいすけ
 深澤 直人・諸熊 大輔

はじめに

タバコは南米原産のナス科植物であり、喫煙用主原料として世界各地で栽培されている種は *Nicotiana tabacum* L. と *N. rustica* L. の2種である。現在、日本で商業栽培されているタバコ植物は *N. tabacum* (図-1) のみであるが、複数の品種が存在し、東日本が主産地の在来種、パーレー種、西日本が主産地の黄色種の3種類に大別される。北は青森県から南は沖縄県まで、全国33県において耕作されており、2025年の耕作面積は全国合計で3,247 ha となっている(全国たばこ耕作組合中央会, 2025)。

日本でタバコ栽培が始まったのは慶長年間(1500年代終盤~1600年代初頭)とされている。害虫は、葉たばこ(収穫したタバコ葉)の品質・収量低下をもたらす

重要な問題として、当時から既に認識されており、当時の農書はタバコガ、カブラヤガなどを主要な害虫として挙げ、防除法として虫取りの励行、耕種的方法、薬草・毒草の利用などを勧めている(高岡, 1991)。近代以降、天然殺虫剤や化学合成殺虫剤の導入により害虫防除はかなり省力化されたが、現在においても害虫防除は葉たばこの品質・収量の低下を防ぐための重要な課題である。本稿では、現在の葉たばこ生産における主要な害虫を挙げ、その生態と防除法を紹介する。

I モモアカアブラムシ

モモアカアブラムシ (*Myzus persicae* (Sulzer)) (図-2, 3) は国内のタバコ栽培において最も重要な害虫の一つである。本種は日本全国に分布しており、世界では熱



図-1 開花期のタバコ *Nicotiana tabacum* (左: 黄色種, 右: パーレー種)

Biology and Management of Insect Pests in Tobacco Cultivation.
 By Naoto FUKAZAWA and Daisuke MOROKUMA

(キーワード: モモアカアブラムシ, ヨトウガ, タバコガ, タバコノミハムシ, クロメンガタスズメ, タバコシバンムシ, チャマダラメイガ)